

上川陽子総務副大臣が『天かける』医療・介護連携事業を視察



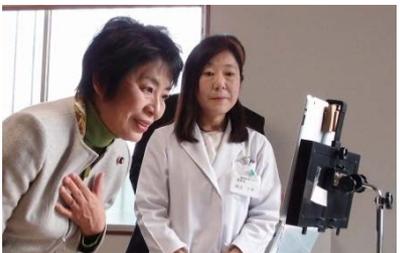
尾道方式ケアカンファレンスを視察(@片山医院)



急性期病院でのシステムを視察(@尾道市立市民病院)



調剤薬局でのシステムを視察(@あい薬局)



離島の患者に遠隔服薬指導(@あい薬局)

平成26年1月22日(水)、上川陽子総務副大臣が広島県尾道市の医療・介護連携事業(愛称:『天かける』)を視察しました。この事業は、尾道市・三原市・松永沼隈地域(福山市)の病院・診療所・介護施設・調剤薬局等が広域の医療情報共有・連携基盤を構築し、電子カルテやレセプト等の情報を公開・閲覧することにより、地域包括ケアを一体となって行うことをめざす多職種連携モデルです。

平成23年、24年度に総務省の「健康情報活用基盤構築事業」(日本版EHR)として実証事業を行い、その後もNPO法人を中心に地域の医療機関等122の施設が参加し、取り組みを継続しているものです。

まず、事業主体のNPO法人『天かける』から事業の概要、成果と課題等の説明を受け、回復期病院である因島医師会病院と隣接する介護老人保険施設のピロードの丘を視察、さらに、診療所の片山医院、急性期病院の尾道市立市民病院、そして、調剤薬局の“あい薬局”を順次訪問しました。

診療所(片山医院)では、在宅主治医が主宰し、関係する診療科の医師・介護関係者・民生委員・家族等が一堂に会し、末期患者の今後の治療・介護方針を話し合うケアカンファレンスを傍聴しました。

また、急性期病院(尾道市立市民病院)では、退院患者の退院後のリハビリ治療等の方針を話し合うケアカンファレンスを傍聴しました。上記のケアカンファレンスでは、『天かける』の医療情報連携システム(ID-Link)を関係者が事前に閲覧し、情報を共有していることで、僅か15分間という短時間であるにもかかわらず、濃密なコミュニケーションが図られており、視察の関係者から驚きの声が上がっていました。また、調剤薬局では、医師と薬剤師が病名・症状等の診療情報を共有することで、的確な服薬指導が実現するとともに、患者さんからの申告情報を逆に薬局の薬剤師から担当の医師にフィードバックすることもあるとの話もありました。さらに、内閣府の特区事業で実証し、現在、広島県がモデル事業として引き継いでいるタブレット端末を使った遠隔服薬指導の様子も視察しました。

なお、視察には、田邊総務省情報流通高度化推進室長と齊藤中国総合通信局長が同行しました。

中国総合通信局では、超高齢社会を迎え、『スマートプラチナ社会』の構築を実現するため、地域における様々な取り組みを応援していきたいと考えています。



関係者と意見交換する上川陽子総務副大臣